

国際看護論	3年・後期	1単位	教授 世喜 利彦
科目カテゴリー	看護の統合	科目ナンバリング	34121143

1. 授業のねらい・概要

看護のニーズはあらゆる人々に普遍的である。看護ケアは年齢、皮膚の色、信条、文化、生涯や疾病、ジェンダー、性的指向、国籍、政治、人種、社会的地位を尊重するものであり、これらを理由に制約されるものではない（国際看護師協会の倫理綱領の前文）。国境を越えて広域的に広がる健康問題は、感染症をはじめとして地震・津波による自然災害、紛争やテロなどによる難民流出などの人的災害がある。食料不足で生じる貧困と飢餓も広域的である。このように日本はもとより世界の社会状況に敏感に反応できる感性を向け、自ら判断して行動することが国際看護の目指すところだと考える。グローバル化を踏まえた国際看護の基本理念を学習し、看護師の立場でどのようにグローバルヘルスへ参画していくかを考察する。

2. 到達目標

1. 世界に目を開く： 国際看護の目的・概念を理解する。
2. 国際看護を支える組織や国際協力機関の仕組みを理解する。
3. 現場で何が起きているのか： 国際看護活動の展開・実践を理解する。
4. 国際協力への理解を深める。

3. 授業の進め方

基本的には、教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

4. 授業計画

1. 国際看護論とは？	5. 子どもの健康（1）（小児疾病統合管理）
2. 国際保健医療と標準化の必要性	6. 子どもの健康（2）（国際看護と感染症）
3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（1） （開発途上国の妊産婦死亡について）	7. 国際災害医療・看護
4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（2） （ジェンダーについて）	8. 国際災害現場における心のケア、医療チーム運営・管理

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上のコマ数出席者）100%を判断基準にして評価する。

6. テキスト・参考文献

教科書： 柳沢 理子，国際看護学（看護の統合と実践， 開発途上国への看護実践を踏まえて）
[第1版] ピラールプレス 2015年

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

最低1時間の予習の中であらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおく。復習(1時間以上)は、その日のうちに行う。

8. 受講上の留意事項

また不明な点、理解できない点があれば、遠慮しないで、質問してください。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験週間においてレポートを提出いただき、その際、課題のねらいについては説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目であり修得できない場合には直接、進級不可にはなりませんが、必修単位と選択単位を合計して、卒業要件単位数を満たさなければなりません。